



さてさて、きょうのおはなしは……

瀬田貞二著／野見山響子絵

日本や世界の昔話がこの1冊にまとまっていて、全部で28話が収録されています。読み聞かせの聞き手も読み手も楽しむことができる絵本となっています。

各話の味わい深い絵も魅力的です。(あぶた読書の家所蔵)

読書の家から

あぶた読書の家 (☎ 76-2100)
[時間] 10時～16時20分 [休館日] 木曜日、祝日
みずうみ読書の家 (☎ 75-4702)
[時間] 10時～15時 [休館日] 木曜日、祝日
洞爺総合センター図書室 (☎ 82-5111)
[時間] 9時～16時30分 [休館日] なし

新刊案内

■あぶた読書の家

△一般▽▽本当の貧困の話
をしよう (石井光太) △むら
さきのスカートの女 (今村夏
子) △祝祭と予感 (恩田陸)
▽最果ての決闘者 (逢坂剛)
▽巡礼の家 (天童荒太) △逃
亡小説 (吉田修一) △ツナグ
想い人の心得 (辻村深月) △
アンジュと頭獅子王 (吉田修一)
▽小箱 (小川洋子)

△児童書▽▽しろいしろいこ
ろわん (間所ひさこ著／黒井
健絵)

■みずうみ読書の家

△一般▽▽楽園の真下 (荻
原浩) △アスリート (あさの
あつこ) △あの日に帰りたい
駐在日記 (小路幸也) △雨に
消えた向日葵 (吉川英梨) △
Iの悲劇 (米澤穂信) △天
保十四年のキャリーオーバー
(五十嵐貴久) △カッコウの微
笑み (福田和代) △のっけか
ら失礼します (三浦しをん)
△児童書▽▽ノラネコぐんだ
ん カレーライス (工藤ノリ
コ) △やりすぎ絶滅いきもの

図鑑 (今泉忠明監修／川崎悟
司絵) △こんなとき きみな
らどうする? (五味太郎) △
天気の子 (新海誠)

■洞爺総合センター図書室

△一般▽▽奇跡の人 (原田
マハ) △最後のトリック (深水
黎一郎) △自画像 (朝比奈あす
か) △ひとつむぎの手 (知念
実希人) △ボトルネック (米
澤穂信)
△児童書▽▽りゆうがあらま
す (ヨシタケシンスケ) △そ
こつ長屋 (野村たかあき) △
Wonderワンダー (R.
J. パラシオ) △たこ (加古
里子)

● 絵本の玉手箱 1月のおはなし会
■日 時 ①1月24日 (金) 14時～15時
30分 ②1月13日 (月)、1月27日 (月)、
2月10日 (月) 10時～11時30分
■場 所 ①あぶた読書の家②あぶた母と子
の館
■問合せ 佐藤 (☎ 76-2487)
ピノキオの会 読み聞かせ
■日 時 2月17日 (月) 14時40分～
15時10分
■場 所 あぶた読書の家
■問合せ 松本 (☎ 76-2613)

地域おこし協力隊



通信

vol.22

今月の
リポーター
平岡龍さん



洞 爺湖町にも冬がやって
きました。関西にいた
ころは、冬の野菜はビニ
ルハウスか輸入がほとん
だと思っていました。し
かし、洞爺湖町に来て雪室と
いうものを知りました。雪
室とは、雪を活用した天然
の冷蔵庫で、収穫した野菜
をいれて保存するというも
のです。

私は、この雪室に非常に
驚きました。外に放置して
いたら、すぐに傷んでしま
うのではないかと思ってい
たのです。しかし、きちん
と管理さえしていれば越冬
できるということに感動し
ました。これは、北海道な
らではの知恵で関西では思
いもしなかったことです。

また、野菜の品種によっ
ては雪室に入れていた方が
味の熟成がすすみおいしく

なるものもあることを知り
ました。特にじゃがいもの
「とうや」という品種は、冬
が第2の旬であることを農
家さんから教えてもらいま
した。冬にも旬の野菜があ
る、おいしい野菜があると
いうのは非常に素晴らしい
ことだと思います。

このようにまだまだ冬の
農業には驚くことばかりで
す。恥ずかしながら、関西に
いたころは雪が多い地方で
は、吹雪などのため、ビニ
ールハウスは冬に稼働して
いないと思っていた。こ
のような初歩的なこと
から学んでいると、1年た
った今でもまだまだ知らな
いことがいっぱいだと痛感
させられます。ゆっくりで
すが、今後も北海道と洞爺
湖町について学んでいき
たいと思います。